出張所の窓辺から vol.64





淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介します。
今回の担当は福島出張所です。

今回は福島出張所から最近の管内情報を紹介します。

出張所管内では阪神なんば線淀川橋梁改築事業や淀川左岸線2期事業の大規模工事が行われています。

阪神なんば線淀川橋梁改築事業については、現在の橋梁は39本と多くの橋脚があり、橋桁も低いため、洪水の流れを阻害してしまいます。今回の改築で橋脚が減り、橋桁が上がることになり洪水を流れやすくします。また、橋桁が上がることにより高潮時の陸閘操作を操作することがなくなります。

淀川左岸線2期事業は大阪市と阪神高速道路株式会社が合併施工方式で事業が実施されています。ルートは出張所のすぐ横で工事が実施されており、日々工事が進捗している様子が分かります。昨年の万博開催期間中は暫定的に活用されていました。

余談ですが、福島出張所庁舎は来年度から移転する予定です。場所は現在の出張所からすぐ下流側です。



左岸線Ⅱ期工事状況

阪神なんば線の工事状況

いきものイチオシ 第47回



高槻出張所管内
河川レンジャー
奥山 佳一

マハゼ

学名：Acanthogobius flavimanus



どこか愛嬌のある正面



川で獲れたマハゼは全長12cmほど

暑い夏も終わり、秋は川を行きかう生物に変化が出てきます。アユは川で産卵し孵化した子どもたちは海に降っていきます。モクズガニは川や池で成長し、産卵のために海へと降りて行きます。秋は多くの生物が海と川を行き来する季節なのです。

マハゼも、内湾（陸地に囲まれた波の穏やかな海域）と河口域を行き来して暮らしている魚で、春から夏にかけて河川下流や干潟などに入り、成長しながら過ごします。そして秋になると産卵準備のために河口から内湾側に下って集まって来ます。

そのため秋の河口付近は、成長した個体が集まりやすく、結果として「よく釣れる」状態になります。淀川河口では10月頃にゴカイやアサリなどを釣針に付けて川に投げ込むと15㎝ほどのマハゼが釣れるので多くの人が釣りを楽しんでいます。

マハゼは、癖のない魚で天ぷらなどにして食べられています。仙台では、干したマハゼを出汁としたお雑煮が食べられています。マハゼは多くの人が好む美味しい魚です。

以前は「淀川で獲れた魚は汚くて食べられない」と言われていたのですが、今は淀川の水もきれいになり、マハゼだけでなく、美味しくいただける「淀川もん」として多くの魚介類が販売されています。皆さんも一度食べてみて下さい。



マハゼの好む環境

国土交通省 川の防災情報
国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご活用ください。
https://www.river.go.jp

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。
詳しくは ホームページでご覧ください。
発行責任者：淀川管内河川レンジャー事務局
〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL:072-861-6801（平日9時～17時）
淀川管内河川レンジャー 検索 https://www.river-ranger.jp

次号は12月の発行予定です！

※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

川と人、人と人を結ぶ
淀川管内 河川レンジャー NEWS
RIVER RANGER
no.76
令和8年10月発行
2026秋号

撮影地：
淀川右岸十三付近の河川敷（大阪市淀川区）

大都会を流れる淀川にも、よく見るとたくさんの生き物がすんでいます。レンジャーとともに川へ出かけて、普段は気づかない川の一面に出会ってみませんか？

河川レンジャーと川に行こう！

河川レンジャーと川に行こう!

皆さんは普段、川に行って何をしますか？
もっと川の事を知りたいけれど個人で行くのは不安…
そんな時は河川レンジャーと出かけてみませんか？

◀最新情報はHPをチェック！



秋の川も魅力がいっぱい！
上流から下流まで、
色々な表情を持つ淀川水系を
レンジャーと見に行こう！







レンジャーは様々な活動を通じて淀川の魅力を伝えています。
今回は、フィールドでの活動にスポットを当てました。



※掲載している活動は全て昨年度のものです
今年度は実施していない、もしくは終了している場合もありますので予めご了承ください。
紹介した以外にもいろいろな活動を行っています。最新情報はHPをチェック！

レンジャーHP 活動一覧▶



River-Ranger コラム vol.25
レンジャーが行く



桂川出張所管内
河川レンジャー
石津 知子

水害の教訓を伝えるために

河川レンジャーの活動で上演している防災紙芝居「水禍（みずのわざわい）」。
今回はこの作品との「出会い」と「思い」についてお伝えします。

「はじまり」

河川レンジャーになった頃、過去の水害を調べるうちに、手にした本が「水禍防災紙芝居～昭和10年『京都大水害』資料集～（編集・発行：上賀茂学区社会福祉協議会）」です。この資料集は、昭和10年京都大水害の後に上賀茂小学校の児童により書かれた水害の感想文集「水禍」の転載文を中心に水害被害の概要、被害地図などでできています。子どもたちの表現に心を打たれ　　ました。



上演しているところ

「出会い」

水禍の編集を担当した方と話をしました。「東日本大震災の被災地支援に行った後に、地域の報告会で偶然、参加者の方から「上賀茂地域も過去に大水害があった」と聞き、さらに記念誌「水禍」の複写の提供を受けました。ページを開いたとき過去から現在、そして未来へとつなげ



上演中は静か

るためのバトンを渡されたような気がしました。資料集が完成し、教訓を伝える方法を「紙芝居」としました。ミホちゃんという主人公が多くの人の協力



人数が多いときはスクリーンでも映す

を得ながら、大雨の中を避難するお話で、記念誌「水禍」の作文の内容がちりばめられています。」とのことでした。

「思い」

地域の歴史を紐とき、そこから学ぶことが大切だといいます。いま私は、過去に水害が多かった地域の一つ京都市南区で活動しています。「水禍」上演時に子どもたちが水を打ったように静まり返るとき、私も未来へのバトンを渡すことができていると感じます。

[Column]
グリーンインフラ×河川レンジャー



グリーンインフラとは、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取り組みを指します。
このコーナーは、河川レンジャーの活動をグリーンインフラの視点で紹介します。



河川レンジャー
アドバイザー
東　親志

桂川流域における治水と自然環境保全の両立に向けて





ワンドに生育するアサザ（左）オグラコウホネ（右）

桂川流域では、洪水に備える治水対策と豊かな自然環境を守る取組をあわせて進めています。具体的には、河道内に広がる竹林（マダケ）の伐採整備と、河道掘削にあわせて整備されたワンドに侵入したナガエツルノゲイトウなどの外来種の防除活動などを行っています。

河道内の竹林には、重要種である陸生ホタルのヒメボタルが生息しています。また、ワンドにはアサザやオグラコウホネ、ヨドゼゼラなどの希少な動植物が見られるなど、豊かな自然環境が残されています。

こうした環境を将来に引き継ぐため、地域住民の皆さんや学生、地元企業と協働で、継続的な保全活動に取り組んでいます。さらに、これらの活動は、地元企業が地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」の認定を目指す取組にもつながっています。

一方で、竹林の多くは民有地にあり、活動を広げるためには地権者の皆さんのご理解とご協力が欠かせません。また、ワンドでは洪水による地形の変化や土砂の堆積、樹木の繁茂などによって水域が狭くなり、希少な植物の生育環境が失われるおそれもあります。

今後も関係機関や地域の皆さんと連携しながら、治水と自然環境保全の両立を目指した活動を進めていきます。





▲竹チップ内カブトムシ幼虫
◀竹チップの運び出し





ワンド内の外来種防除作業状況（手作業による抜き取り作業）